

ヤンデレプリンセスコネクト！Re:Dive

野良風

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

もしもプリンセスコネクト！Re Diveのキャラがヤンデレ化したら

と言うお話です

○○は、主人公の名前となっております

もしヤンデレのセリフは、こうした方が良いよなどのアドバイスがありましたらお願いいたします！

目次

コッコロ	3
ジュン	1

## ジュン

目を覚ますとそこは、真っ暗な部屋だった

「目が覚めたようだね少年」

声が聞こえた方を見るが真っ暗部屋のせいで見ることができない  
がこの声には、聞き覚えがあった

「ジュンさん？」

「声だけで私の事が分かるのか流石だな少年やはり私たちは、運命の  
赤い糸で結ばれているんだな」

「……………」

「赤い糸って知っているか私たちを一生一緒にいさせてくれんだ」

そう言うとジュンは、抱きついてきた

そして耳元で

「すまない、少年目が見えないだろ。怖いだろだが大丈夫だ私が  
ずっと面倒」

「(どうしてこうなったんだ)」

~~~~~

少し時間が戻り

それは、○○が散歩していた時だった

散歩をしていたら思わぬ人と出会った

「少年こんにちは」

「こ、こんにちは」

いつもジュンは、王宮の門を守っている為街中で出会う事がほとん  
ど無いはずなのに目の前に立っている

「今日は、珍しく仕事やすみでな街を歩いていたらちようど君のこ  
とが目に入って声を掛けたが迷惑だったか？」

○○は、横に首を振り

「そんなことは、ないですよ」

「そんなことはないか。嬉しいよそれでもし、もしも暇だったら私に  
付き合ってくれないか」

今度は○○は、縦に首を振り

「いいですよ」

「そうか良かった」

「では、行こうか」

そう言うときジュンは、〇〇の手を引つ張って行った

そしてある一軒家にたどり着き中に入ると

「その椅子に座ってくれ今お茶を出すから」

そう言うとお茶を出した後は、部屋の奥へと消えた

〇〇は、素直に座り出されたお茶を飲んでみると物凄い眠気が襲い  
瞼が重くなってきた

そしてその重さに耐えれずに眠ってしまった

「zzzzzzzz」

「眠ったようだな。うん中々効く薬だな直ぐに眠った」

〇〇が眠ったのを確認すると奥の部屋から戻ってきた

ジュンは、お茶の中に睡眠薬と麻酔を入れ〇〇に飲ませた

「すまないな少年君が私以外の女の子と喋っているのを見るのが凄く  
嫌なんだだからこのままじっとしていてくれよ」

そう言うときジュンは、目薬の様な物を〇〇の目に垂らし始めた

すると目に垂らした液体が目にあたると目を溶かし始めたそれを

ジュンは、両目にやったのだ

~~~~~

「うんうん今日も、大人しく家に入ってくるようだね始めの頃は、逃げ  
出そうとしていたから首輪をつけていたけど最近は、逃げ出そうとす  
る素振りもないみたいだね。まあ、逃げようとしてもその足じゃ満足  
に逃げれないか」

〇〇は、最初の頃は逃げ出そうとする度に酷い目にあわされ首輪を  
つけられたり逃げようとする足が悪いと言いつつ足を痛みつけられたり  
していた為に足は傷だらけになり歩く事も難しくなっている

「少年ここからずっと私と暮らそう」

コッコロ

「主さま起きて下さい朝ですよ」

サレンディア救護院に住んでいる〇〇は、ガイド役であるコッコロに起こされている

「おはようございます主さま。ご飯が出来ていますので早く来てくださいね」

起こされた〇〇は、目を擦りながらご飯を食べに向かった

「遅いよあんた」

「〇〇さんおはようございます」

「お兄ちゃんおはよう」

「お、お兄ちゃんお、おはよう」

サレン、スズメ、アヤネ、クルミの四人が挨拶をした

「おはようみんな」

挨拶をすると席に着いた

そしてコッコロは、朝食を運んで来た

「では、皆さま朝食を食べましょうか」

皆んなが手を合わせて

「いただきます」

~~~~~

朝食を食べ終わり

「主さま今日はお仕事は、お休みですか？お休みでしたら少し買い物に付き合ってくださいてもよろしいですか？」

「良いよ大丈夫」

「では、直ぐに行きましょうか」

~~~~~

そして、買い物に出かけた〇〇とコッコロ

コッコロは、〇〇の隣を歩き鼻歌を歌っている

~~~~~

「ご機嫌だね」

「主さまと一緒にの買い物あまりにもうれしかったものですよませ

ん」

「気にしてないよ。それよりも早く行こう」

「そう言い〇〇は、コツコロの手を引いた

「あ、主さまと手を握っています。このまま時間が止まってほしいです」

しばらく手を繋いだまま歩いていると

「ん！、〇〇達じゃねえかこんな所で何してんだ」

マコトと出会った

「久しぶり」

「お久しぶりです。マコトさま」

「今は、二人で買い物している最中」

「そうか、気をつける最近治安が悪く成っているかな」

「そう言いとマコトは、その場を後にした

~~~~~

二人は、買い物をしている最中

「主さまお夕食の食材買えましたね」

「荷物、重さだね持つよ」

コツコロが持っていた荷物を〇〇は、コツコロの代わりに持った

「やはり主さまは、お優しい」

「あら、〇〇さまー」

次に二人の前に現れたのは、アキノだった

「何をなさっていますの？」

「買い物をしている最中」

それを見たコツコロは

「やはり主さまは、お顔がお広い私知らない方との繋がりも沢山持っております。やはり私なんかでは…」

~~~~~

買い物が終わリコツコロは、自分の部屋に戻った

「はあ、主さま」

部屋に電気をつけるとそこには、部屋の壁が見えない程に〇〇の写真を貼り付けていた

「主さま。明日も早く起きて主さまに目覚めのキスをしなくては…」